戦略的イノベーション創造プログラム（SIP） 概要

Cross-ministerial Strategic Innovation Promotion Program

内閣府

政策統括官（科学技術・イノベーション担当）

総合科学技術・イノベーション会議

１．機能

内閣総理大臣及び内閣を補佐する「知恵の場」。我が国全体の科学技術を俯瞰し、各省より一段高い立場から、総合的・基本的な科学技術政策の企画立案及び総合調整を行う。平成13年1月、内閣府設置法に基づき、「重要政策に関する会議」の一つとして内閣府に設置（平成26年5月18日までは総合科学技術会議）。

２．役割

① 内閣総理大臣等の諮問に応じ、次の事項について調査審議。
　ア．科学技術の総合的かつ計画的な振興を図るための基本的な政策
　イ．科学技術に関する予算、人材等の資源の配分の方針、その他の科学技術の振興に関する重要事項
　ウ．研究開発の成果の実用化によるイノベーションの創出の促進を図るための環境の総合的な整備に関する重要事項
② 科学技術に関する大規模な研究開発その他の国家的に重要な研究開発を評価。
③ ①のア．イ．及びウ．に関し、必要な場合には、諮問を待たず内閣総理大臣等に対し意見具申。

３．構成

内閣総理大臣を議長とし、議員は、①内閣官房長官、②科学技術政策担当大臣、③総理が指定する関係閣僚（総務大臣、財務大臣、文部科学大臣、経済産業大臣）、④総理が指定する関係行政機関の長（日本学術会議会長）、⑤有識者（7名）（任期3年（平成26年5月18日までに任命された者は2年）、再任可）の14名で構成。

総合科学技術・イノベーション会議有識者議員（議員は、両議院の同意を経て内閣総理大臣によって任命される。）

［関係行政機関の長］

上山隆大議員（常勤）

前政策研究大学院大学教授・副学長

(H28.3.6～H31.3.5)
(初任：H28.3.6)

梶原ゆみ子議員（非常勤）

富士通(株)
常務理事

(H30.3.1～H33.2.28)
(初任：H30.3.1)

小谷元子議員（非常勤）

東北大学教授 兼
材料科学高等研究所長

(H28.3.6～H31.3.5)
(初任：H26.3.6)

小林喜光議員（非常勤）

(株)三菱ケミカルHD
取締役会長
経済同友会
代表幹事

(H30.3.1～H33.2.28)
(初任：H30.3.1)

十倉雅和議員（非常勤）

住友化学（株）
代表取締役社長

(H28.3.6～H31.3.5)
(初任：H28.3.6)

橋本和仁議員（非常勤）

国立研究開発法人物質・材料研究機構理事長

(H30.3.1～H33.2.28)
(初任：H25.3.1)

松尾清一議員（非常勤）

名古屋大学総長

(H30.3.1～H33.2.28)
(初任：H30.3.1)

山極壽一議員（非常勤）

日本学術会議
会長

(H29.10.2～H32.9.30)
(初任：H29.10.2)

総合科学技術・イノベーション会議の司令塔機能強化

1．政府全体の科学技術関係予算の戦略的策定

進化した「科学技術重要施策アクションプラン」等により、各府省の概算要求の検討段階から総合科学技術・イノベーション会議が主導。政府全体の予算の重点配分等をリードしていく新たなメカニズムを導入。（大臣が主催し、関係府省局長級で構成する「科学技術イノベーション予算戦略会議」を開催）

2．戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）

エスアイピー

総合科学技術・イノベーション会議が府省・分野の枠を超えて自ら予算配分して、基礎研究から出口（実用化・事業化）までを見据えた取組を推進。

3．革新的研究開発推進プログラム（ImPACT）

インパクト

実現すれば産業や社会のあり方に大きな変革をもたらす革新的な科学技術イノベーションの創出を目指し、ハイリスク・ハイインパクトな挑戦的研究開発を推進。

4．官民研究開発投資拡大プログラム（PRISM）

プリズム

平成30年度に創設。高い民間研究開発投資誘発効果が見込まれる「研究開発投資ターゲット領域」に各省庁の研究開発施策を誘導し、官民の研究開発投資の拡大、財政支出の効率化等を目指す。

プログラムの概要

＜SIPの特徴＞

○総合科学技術・イノベーション会議が、社会的に不可欠で、日本の経済・産業競争力にとって重要な課題、プログラムディレクター（ＰＤ）及び予算をトップダウンで決定。

○府省連携による分野横断的な取組を産学官連携で推進。

○基礎研究から実用化・事業化までを見据えて一気通貫で研究開発を推進。

＜予算＞

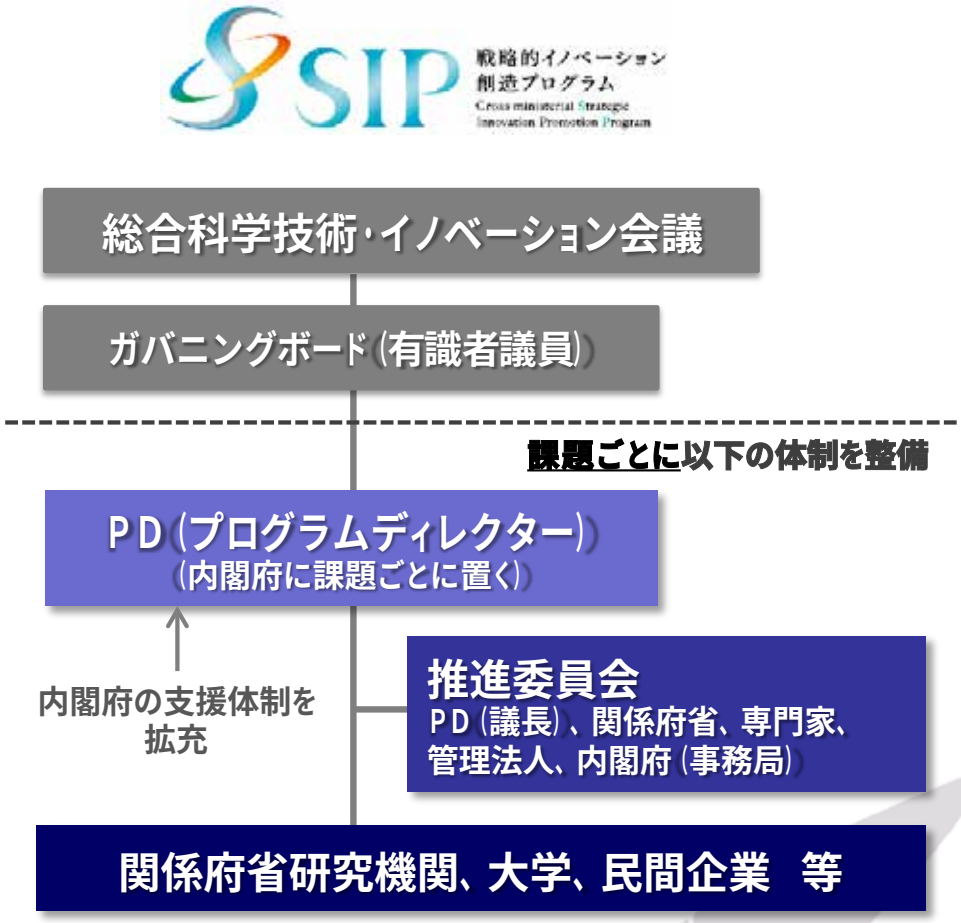
○平成26年度予算より「科学技術イノベーション創造推進費」を325億円計上（平成30年度予算は280億円）。

○平成29年度補正予算として「科学技術イノベーション創造推進費」を325億円計上（課題候補を総合科学技術イノベーション会議で決定済み、現在PDを公募、選定中）。

プログラムの仕組み

＜実施体制＞

○課題ごとにPD（プログラムディレクター）を選定（内閣総理大臣が総合科学技術・イノベーション会議の承認を経て任命。）。

○PDは関係府省の縦割りを打破し、府省を横断する視点からプログラムを推進。このためにＰＤが議長となり、関係府省等が参加する推進委員会を設置。

○ガバニングボード（構成員：総合科学技術・イノベーション会議有識者議員）を随時開催し、全課題に対する評価・助言を行う。